

水源の森

秋

暦は気短かに先走りしています。暑い盛りの8月上旬がもう立秋。山では、朝夕の冷え込みに驚かされる。山かげに太陽が沈んだ瞬間から、ゾクッとする。思わず首をすくめる。

梢がゆれる。風の声。昔も今も秋を知らせるのは風のように。目をつぶって、時の流れを感じとりましょう。

目の不自由な人に“あ、キツツキが飛んで来ました”といったら“2

羽ですね！”といわれて、説明する人がびっくりしたとか。

林の中を歩いていたら“この木、背が高くて葉が小さいですね”と、先に説明されてしまったとか…………。

心を澄ますと、今まで気づかなかったことが見えてくるようです。いつもと違う風景、自分を見つめるのも、秋です。



たべられる？ たべられない？



なめこ

キノコいろいろ

山でキノコを見つけると必ず聞かれるのが“食べられる？毒キノコかなア？”の質問。でも種類がすごく多いんです。

- (1) ふつうの図鑑にのってるのがせいぜい500種から2,000種ぐらい。
地方独特の呼び名もあって、本当の数はわからない。
- (2) 出はじめから消えるまで、キノコも赤ん坊とオバサンでは姿が変わる。
- (3) 俗にいわれる毒キノコ判別法は、例外が多くて危険！
公式見解としては多分こんな言い訳がなりたつようです。

でも、そうむずかしく考えないで——。長年そこで暮らしている人がとってきた山の幸を感謝してたべましょう。ほんとおいしいキノコが生える場所は、誰にもみつからないように遠まわりして取りに行く、などという山の話聞きながら。

この地球からキノコの仲間が絶滅したら、ゴミの山になって、大変なことになるんです。



ゆで卵のような幼菌から生長する真赤なタマゴタケ(金沢)



ドングリコロコロ、新芽はどこから？

ミズナラの大木の下には、ドングリがたくさん！白い根がでているものもあります。

木の種類によって実の形は違う。ブナの実やシイの実もドングリっていうのでしょうか？

家の近くの雑木林のドングリを思い出しながら、整理しましょう。

- 〔 常緑樹……シラカシ・スダジイ
- 〔 落葉樹……コナラ・クヌギ
- 〔 その年になる……ミズナラ・カシワ
- 〔 翌年になる……マテバシイ・アカガシ

実がなるからには、この春か、前の年かに花が咲いたはずです。“ドングリコロコロ……” という歌、知ってますよね。“メダカの学校” という歌もある。

“誰が生徒か先生か” というのは、一方通行の説明ではなくて、いっしょに考える、環境教育の原点だという話もあるんですよ。



山のあちこちには、どれどれ？



紅葉も黄葉もある秋の山

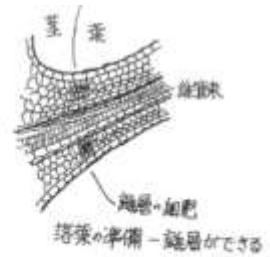
晩秋の山旅の楽しさにモミジはつきもの。ここ水源の森には、8種類ものモミジの仲間があるんです。

年によって、きれいさが違う。日照、昼と夜との温度差など。今年はよさそう、と思っていたのに霜で。いっぺんにちぢんでしまうことも。

1本の木でも、北側の南側、先端ともとの方では微妙なグラデーションがありますよね。

赤と黄色ばかりでなく、シックな茶色やコシアブラのような明るい黄緑というの。草もみじという言葉もあります。

半年前、日本列島を桜前線が北上したのとは反対に、もみじは山の上から里へと降りて、日本の秋を飾ります。



“もみじ”を漢字でかくと……

木の名前を聞かれる。次の質問は“漢字では……？”となるのが恐怖です。“動植物名はカナ書きです。”といっちはソッケなさすぎるし。

要するに、中国産の植物と日本のとはイコールじゃないし、昔の文献は漢文(?)で、カラー写真も標本もついてなかった。勘ちがいもあって困ったんです。

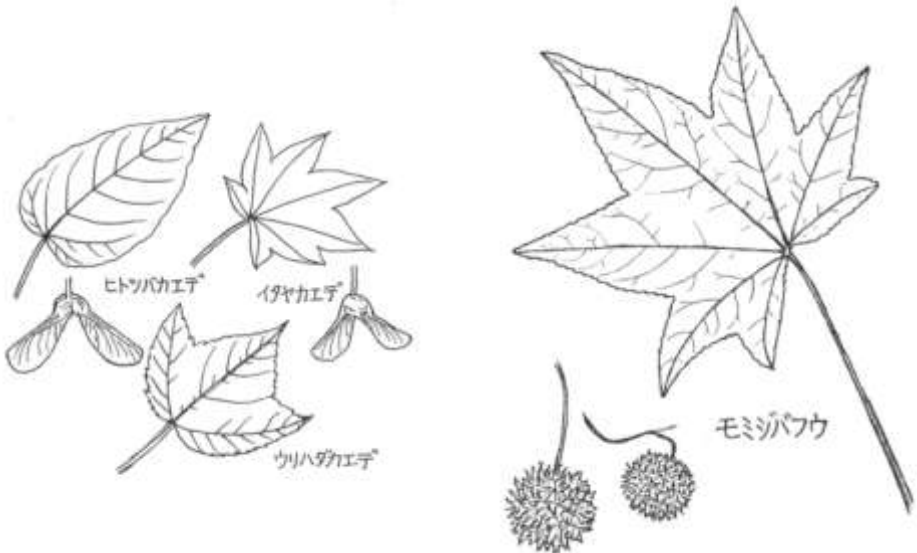
もみじの古名、いろいろあります。鶏冠木、機楓、戚樹、蛙手など。

楓の字は、中国ではマンサク科のモミジバフウのことで、実の形も違います。

日本のカエデ類を世界に紹介したスウェーデンの Thunberg (1743～1823) は、6種類の中に、ハリギリとカクレミノも入れてしまった！

植物の分類は、花の構造を基本に区別しているのに、葉の形にまどわされたか、サンプルに花も果実もなかったのか？

ところで、モミジとカエデは同じものかな？



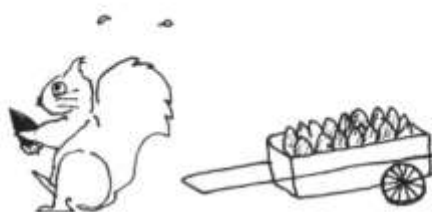
大昔からの住人—— 哺乳類の仲間

1年の半分は雪で埋まる奥利根の自然に、大昔から住みついていた動物たちは、どんな顔ぶれ？

哺乳類ウォッチングは、めぐりあえればラッキー！ということ。人の通る所に出没すること自体が、普通じゃなかったはずなんです。

草食獣の冬のたべものは、木の実、ササ、木の皮や新芽など。短足のイノシシは、雪がニガテ。30cmの積雪が70日以上になると生活できないといわれていますから、ここでは暮らせません。

そんな動物たちの視点からも、これから始まる冬の暮らしを感じとってください。



フィールドサインとウンコロジー

直接に姿形は見えなくても、動物たちの生活の跡は、その気になればあちこちで見られます。けもの道、爪をといた幹、排泄物など。

ヨーロッパの学者さんは、糞を動物からの名刺になぞらえて、ビジティング・カードなどと呼んでましたが、ひらたくいえばウンコロジー。何を食べたかがわかります。

ダーウィンの40年にわたるミミズの糞の研究は有名です。肉食獣の糞はくさいけれど、このあたりに住んでるのは草食獣。割ってみるとセンイがミジンにこまかくなっているのにびっくりします。

どのくらいの大きさの動物が、何日前にここを通ったんだろう— のミステリーの始まりです。



川沿いの林もぜひ！

津奈木から尾瀬の方へ向かう道路の下へ、おりて見ましたか？ ここ水源の森へ来るとき、右側に続いていた川の流れと、それを包み込んで東へ続く多彩な緑のコリドー。

見上げる左側の景色とは、どこか感じが違う。それに気づき、確かめようと歩きだしたあなたは、きっと若々しいセンスの持ち主です。

急な斜面や凸凹の多い所は、人手を入れにくいから、大昔からの自然がそっくり残されている可能性大です。

木材を運んだ時代の名残りも見られます。森で暮らす人々の営みも。やがて来る雪深い冬の季節。ここの緑はどんな風に耐えて、春の訪れを待つのでしょうか。

え？ そんなこと全然気にもしなかったという人がいたら、来年またここへ、ぜひ。四季それぞれの自然の装いを確かめてほしいと思います。



文とイラスト 高野史郎
表紙とかわいいイラスト 浦田慈子

〒105-0014 東京都港区芝 2-4-3
三菱東京UFJ銀行芝ビル
TEL : 03-5730-0337 FAX : 03-5232-0312

公益財団法人 三菱UFJ環境財団